



まちづくりと

協働

皆さんは協働という言葉を目にしたことはありませんか。協働とは特別なことではありません。それぞれで解決できない問題を、お互いに力を合わせることで解決できたり、一緒にやることで、もっと大きな成果を生むことができる一つの手法です。

市内には、長崎のまちをよくしようとして、自治会をはじめ、NPO・ボランティアなど、さまざまなかたが活動しています。まちをもっとよくするには、まちに関わる全ての人が、自分ができる活動を始めることが第一歩。そして、活動している人同士が手を組んで、力を合わせることもとても大切です。

「私の地域でも協働をしているよ」と思われるかたもいるかと思いますが。市民と市民、地域と大学、行政と企業、企業と大学…と、やり方はさまざまです。今回は、市民の皆さんが主役の協働のまちづくりについて考えてみませんか。

市民協働推進室

(☎029・1125)

なぜ「協働」が 必要なんだろう？

社会構造が変わり、価値観も多様になるなど、私たちを取りまく環境は大きく変化しています。しかし、私たちのまちをより良くするためにこれからも絶対に必要なことがあります。

それは、たくさんの人たちがまちづくりに参加し、そしてお互いが力を合わせて、どんな変化にも通用する新たな仕組みを創造していくということです。

背景は社会構造などの変化

以前のまちづくりは、政策を国が決め、それに沿って地方自治体が事業を行うというやり方でした。

ところが、人口減少や少子化、ライフスタイルの多様化など、今、社会は大きく変化しています。そのような中では、これまでの画一的な行政サービスだけでは、地域のニーズや課題のすべてに対応することができなくなってきています。

そこで、地域が主体となって、地域に合ったやり方でまちづくりを進めることが、これまで以上に必要になってくるのです。

広がりを見せつつある

市民活動

私たちがよく知っている身近な市民活動は自治会活動です。昔から、地域の絆をつくったり、課題に取り組んだりしています。

一方で、NPOやボランティア団体などの市民活動団体が、地域の新たな担い手として活動の場を広げつつあります。さらには、企業の地域貢献活動も行われています。

このような活動がもっと広がって、もっと輝くと、まちが今よりもよくなると思いませんか？今のまちづくりにはそのような「市民力」が求められているのです。

そして、協働は「自分たちのまちは自分たちでつくる」という方々がつながることで、もっと輝きながら住みよいまちをつくる方法の一つとして、さまざまな効果が期待されています。

協働で効果的なまちづくり

では、協働するどのような効果が期待されるのでしょうか。

それは、市民ニーズに沿ったまちづくりが効果的に行えるということです。

※ ※ ※

例えば、想像してみてください。あなたが家の前の道をキレイにしたいと思った時、一人で作業をすると時間も労力もかかります。しかし、地域の人があんなで協力すれば早く、しかも広い範囲がキレイになりますね。協力することで「道から見るところに花を植えたらどうだろうー」そんなアイデアも出るかもしれません。

多くの人がアイデアを持ちよってできることから始めることで、住みよいまちになりそうだと思いますか？

※ ※ ※

地域に詳しい自治会や、市民活動団体、大学・企業。どれもとても大切で、それぞれが協働することで、より良いまちづくりや地域の課題解決などが効果的に進められます。

今回は、主に地域の団体と長崎市の地域課題の解決に向けた取り組み事例を見ながらまちづくりと協働について考えてみましょう。

地域の自然を環境教室に生かす

十数年前に耕作がやめられた相川町の休耕田では以前、希少生物が住みかを追われる危機に瀕していました。

そこで市が地域の意見をふまえながら再生計画を立て、それに沿って自治会が平成16年から、きめ細やかな維持管理を実施。現在は多くの生物がすむ湿地として再生しました。

「危機を乗り越えたこの地で、環境保全の大切さを広めたい」。自治会と環境保全課の思いが「親子環境教室」の開催を実現しました。



自治会の環境保全への思い

「相川湿地は、市内でも希少な生物の生息地の一つです。自然いっぱいこの地を地域の人だけでなく、多くの人が知って、環境保全の大切さを後世に継いでほしいと思っていました。そのような中、環境保全課のかたに今回の教室を提案していただきました。多くの人が参加できるように、広報や講師の手配などでも協力してもらっています」と、相川自治会長の萩さんは語ります。

環境保全課によると、年に4回親子環境教室を開催していますが、今回は、特に両生類の産卵が多いこの湿地を冬季の教室に選んだそうです。

何より自治会に以前からいただいている湿地の維持管理に同課はとても感謝しているとのことでした。あぜ道の整備や湿地の水量調整、毎日の見回り活動…。市だけでは行き届かない、自治会の細やかな対応があったからこそ、湿地の環境が保たれています。

多くの親子が学びました

そのようにして企画された2月の親子環境教室。市内各地から約70人もの親子が参加。駐車場の案内は自治会のかたが中心となっており、教室は環境保全課の進行のもと、同課が依頼した講師により行われ、多くの親子が環境保全の大切さを学ぶことができました。

まさに「地域への愛情」と「環境保全の大切さを広めたい」という思いが、この教室を成功に導いたのだと思います。

地域への愛情が活動の原動力です。湿地では「ニホンアカガエル」や「ヘイケボタル」などの希少生物が見られるのが自慢です。また、湿地の脇を流れる川や山でもいろんな動植物とふれあうことができますよ。

地域の魅力を発信できる機会が今後も増えるといいですね！

自治会のかたの献身的な維持管理のおかげで、多くの生物が住むようになり教室が開催できました。トイレや駐車場も必須でしたが、地域のかたの協力で、使いやすい場所を準備していただきました。ありがとうございます！



環境保全課
小川 保徳さん



相川自治会長
萩 憲勝さん

特集

市政

長崎市民

「ご意見・プレゼント」

生活情報

健康

子育て

税

福祉

講演・講座

もよおし

おしらせ

募集

DVの根絶を 目指して

NPO法人
DV防止ながさき
×
男女共同参画推進
センター



DV(ドメスティックバイ
オレンス)の種類は身体的・
精神的・経済的・性的と多様
で、その保護やケアの仕方
には繊細さが求められます。
また、DV被害を減らす
には、若いうちから「暴力」
について良く知り、予防す
ることがとても大切です。
そこで、DV防止ながさ
きと男女共同参画推進セン
ターが手を組み、中学校で
の「デートDV防止授業」を
実施しています。

※DV:配偶者や恋人など、親密な
男女関係の中で起こる暴力
※デートDV:DVの中でも、特に
恋人同士の暴力を指す

「NPO法人 DV防止ながさき」
DV防止の啓発と被害者の支援
のために平成14年に発足。「啓発」
「相談」「人材育成」「サポート」
を柱として、長崎県内を中心に50
人ほどの会員が活動しています。

効果的に授業が行えました

両者の協働のきっかけは、平成22年
度に、市の事業として行った中学校向
けの「若者DV防止啓発事業」でした。

「それまでの活動の蓄積で、交際経験
のある女子高生の2割が被害を受けて
いることがわかっていました。だから、
早期予防のため中学生向けに授業をし
たいと考えたのです」。そう語るのは理
事長の中田さん。

この事業では、男女共同参画推進セ
ンターが、効果的な中学校への周知、
DV防止ながさきが、市単独ではでき
ない、地道な活動で得た知識やノウハ
ウが詰まった授業をする、という役割
分担を行いました。

その年は何と22校約2800人もの
生徒が授業を受けられました。学校側
の理解も得られ、現在行っている講座
として継続することとなりました。

地道な活動に感謝!

「生徒に寄り添い繊細な心をしつかり
とつかむことが、授業ではとても大切
です。派遣講座として行うには、きめ
細やかな授業が必要となるので助かり
ます」。同センターの講座担当の立花さ
んは、DV防止ながさきがいたからこ
そでできる活動にとても感謝しています。

社会環境の変化やネット社会で、若者
の考え方も多様になったといわれます。
しかし両者がDV根絶のためお互いの
強みを生かすことで、若者に寄り添った
活動が今後もきつとできると思います。

今では学校側にもデートDV防
止授業の必要性をよく理解してい
ただくようになってきました。
今年度からは、私たちも効果的
な授業のノウハウを学びながら、
講師として活動しています。

長崎市との協働だからこそ、たく
さんの市内中学校で授業を開くこ
うことができました。

現在も男女共同参画推進センター
の派遣講座として継続して授業をし
ていますが、これでDVが少しでも
なくなればいいと思います。

男女共同参画推進センター
立花 悦子さん

DV防止ながさき 理事長
中田 慶子さん

あなたの「思い」「地域への愛情」が まちをもっとステキにします。

このように、地域ではさまざまな人がまちを良くしようと活動しています。

一人ひとりが「自分たちのまちは自分たちでよくする」という気持ちを持ってみんなの手と手を取り合おうと、長崎のまちがもっとステキになると思いませんか。

あなたの住むまちには、どんないいところがありますか？ あなたの得意なこと、興味があることは何ですか？ それらを社会や地域で生かすと、どれほどの笑顔が生まれるか、想像してみてください。

「私に何ができるかな」「協働についてももう少し知りたいたい！」「そういう自分探し、資源探しのきっかけになれば、幸いです。」

私にできることって何だろう？

まちをよくする活動のヒントに！



長崎市民が選ぶ市民活動表彰 ランタナ大賞 2013 を見に行こう！

市民活動センター「ランタナ」の登録団体が、市内で行った1年間の活動を報告します。そして、市民の皆さんの投票で大賞が決定！
市民活動団体の生の声が聞けるチャンスです！まちづくりのヒントにしてみませんか。

【日時】3月16日（日）午後1時30分～

【場所】市立図書館 多目的ホール

【内容】51団体のエントリーから選考を通過した5団体による活動報告と市民投票、優秀団体の表彰

【参加料】100円（各団体の得票数に応じて、寄附金として団体に贈呈）

活動報告をする5団体

- ①ピースバトン・ナガサキ
- ②「みんなにやさしいトイレ会議」実行委員会
- ③長崎おもちゃ病院
- ④ながさきダンカース倶楽部
- ⑤もってこい長崎レクリエーショングループ
お手玉の会

協働したい！
だけど何からすればいいの？

まずは自分を知ることから！

大事なことは、自分（団体）自身のことを知ることが第一歩です。自身の目的や強み、困っていることなどを確認することで、誰と協働することがいいのかが見えてきます。また、協働に向けて相手にアピールするときのポイントも整理できます。

整理の仕方や手続き、心構えなどもっと知りたいと思ったかたは、協働ハンドブック「もってこい市民力」をご活用ください！

協働のコツがいっぱい！



市民活動センター「ランタナ」で配布（無料）。

市民活動や協働に関する
いろんな情報がほしい！

市民活動センター「ランタナ」へ行こう！

「ランタナ」は市民活動・ボランティアを行っているかたや、これから活動をしようと考えているかたの交流の拠点施設として開放しています。

また、皆さんと長崎市のいろんな所属との協働のコーディネーターもしています。市と協働したい、こんな団体とつながりたい、活動してみたいけど、何から始めていいかわからない、などお気軽にご相談ください。



【開館時間】平 日…午前8時45分～午後10時

土日祝…午前8時45分～午後5時30分

【住所】馬町21-1 【メール】shiminryoku@city.nagasaki.lg.jp

【ホームページ】「長崎市 市民協働」で検索

いずれも、お問い合わせは市民協働推進室（☎ 829-1125）